

## 11月 月例報告書

### 1. はじめに

留学生活も4ヶ月目になりました。アメリカにきてから、とても忙しく、休む日もあまりありませんでしたが、11月は特に忙しかったように感じます。11月の寒さと共に訪れた怒涛の日々について今回もまとめて行きたいと思います。

### 2. Culture Connection

先月の報告書でも述べた「Culture Connection」の授業について、今月もとても意味のある学びを得ることができました。今月は秋休み(Thanksgiving break)の期間を除いて3回の授業を行いました。11/2に「Gifted Program」といって、Giftedの子供たちが私たちの大学に訪れ、様々な体験を行うというプログラムがありました。その一環で私たちは、日本の文化体験として、日本についてのミニクイズとかるた、書道を紹介しました。15分おきに子どもたちが6回入れ替わるため、多くの子どもたちと触れ合うことができました。Giftedについて、文芸大の教育の授業で学んだことがあったのですが、実際に彼らと関わることは初めてでした。彼らは年齢の割に落ち着いた印象と、日本について知っていることも多く、少し話しただけの私でもIQの高さが窺えるほどでした。11/7に「Liberty Center School」に行きました。そこでは、小学校中学年ほどの子どもたちに自国の文化について教えるというものでした。私のトピックは「相撲」で、アクティビティとして「手押し相撲」をしました。事前準備として相撲について調べ、パワーポイントを作成したのですが、日本についても相撲についても知らないことがとても多く、活動当日だけでなく、準備段階からとても学びの多い活動でした。彼らは、私の発表に対し、興味を持って私自身についても、日本についても知ろうとする姿を見せてくれました。私たちが帰る頃、一人の女の子が私に自分が付けていたブレスレットを差し出してくれました。また、別れが辛く泣いてくれる子もいて、短い時間でしたが互いに思い出深いの日になったのかと思います。最後にバスまで手を繋いでアーチを作りお見送りしてくれたこともとても思い出深いです。11/10には「Findlay Hancock Country Public Library」に行って、同じように子どもたちに対し文化体験のプログラムを行いました。日本に関しての紹介としては折り紙やかかるた、じゃんけん列車を行いました。これまでフィンドレー大学での留学生活では大人や大学生と話す機会が多かったのですが、この授業を通して子どもに対して話す機会が増え、ただ英語を話すだけでなく話す相手に合わせて、話し方を変える力がついたと思います。あくまで第二言語だからと言ってただ自分が話すことに一生懸命になるのではなく、誰に話すのか、聞き手は誰どのように話したら伝わりやすいのか考えて英語を話すことはとても重要であると思います。母語だと簡単にできていたことが、第二言語になるとできなくなります。ただ言語の習得だけでなく第二言語を使用したコミュニケーションを学ぶことができ、日本に居たら学ぶことができない体験をしているように感じます。



### 3. Choir Concert

11/5にChoirのコンサートに参加しました。半期を通して、Choirの授業にて練習をしていたので、その集大成を見せることができ、とても良い経験をする事ができました。私たち留学生にとって何度も経験できることではないため、多くの友人たちが見に来てくれました。教会で歌う経験は今までなく、これまで讚美歌に馴染みのなかった私にとってとても新鮮で、友人がコンサート終了後にお花を渡してくれたときは泣いてしまいました。初めはChoirのクラスを履修するか迷っていたのですが、履修して本当によかったです。アメリカに来て、宗教を感じる事が本当に多いです。至る所に教会があり、大学においても聖書の学習を自主的にする生徒がたくさんいます。キリスト教的考え方を感ずることも多く、彼らのイエスのように生きるという精神から助けられることはたくさんあります。日本の社会は神道を基にできているのかと思います。留学に来る前は、日本人のほとんどは無宗教だ、なんて思っていたのですがこの考えは間違っていました。私たちは自身が気づいていないだけで宗教的考え方を持っています。アメリカに来て、英語の次に多く学んだことはキリスト教についてです。もともと宗教に関心がありましたが、実際に触れる機会はありませんでした。アメリカに来て日本にいた時よりも、宗教を身近に感じ、宗教の凄さを感じます。来学期は宗教を授業を履修したいと考えているのでとても楽しみです。



#### 4. Thanksgiving

Thanksgiving day とはアメリカの大きな祝日です。この日は収穫の恵みを感謝する伝統的な祝日であり、今では家族や親戚、友人たちと集まって Thanksgiving の食べ物を囲みながら賑やかに過ごす日です。なので、ほとんどの学生は実家に帰ります。Thanksgiving break は約5日間あったのですが、私は3人の友人の実家に招待してもらいました。友人たちの実家で、Thanksgiving の食べ物を楽しみ、彼らの家族と一緒に時間を過ごし、加えて Black Friday のショッピングにも連れて行ってもらいました。たった5日間で3軒も訪問した上に Black Friday まで楽しみ、本当に忙しかったです。そして、アメリカは11月からクリスマスモードなので友人の実家が位置する Bluffton でのクリスマスパレードも楽しみました。留学生活でのバケッリストの一つであった友人の実家で本場の Thanksgiving を体験することができ、本当に貴重な経験となりました。





## 5. お別れ会

8～12月で1つの学期が終わります。このタイミングで文芸大からだけでなく他大学からの多くの日本人留学生が留学生活を終え、帰国します。そんな留学生に向けて、フィンドレー大学に勤める日本人の先生方がお別れ会を開いてくださいました。この留学生活4ヶ月間で出会ったほぼ全ての友人たちを招待したのですが、彼らが一斉に集まった時、私たちはこれだけの人と関係を築いたのだととても胸が熱くなりました。フィンドレーの学生は本当に優しい人ばかりで私たちに良くしてくれます。この冬に帰国する友人たちのスピーチを聞くと、自分の留学生活も残り少ないのだと実感し、気が引き締まる思いです。一緒に悩みや楽しい時間を共有してきた友人たちがいなくなると思うととても辛いです。より一層頑張りたいと思った瞬間でした。来年の私が帰国する時、もっと多くの友人たちを集められるようにしたいです。



## 6. 終わりに

今月は人生で初めてのアイスホッケー観戦をしました。会場の雰囲気から既に日本と

の違いが感じられ、本当に楽しかったです。アメリカに来たら絶対にスポーツ観戦をしてください！

11月に入り、忙しさを感じるとともにアメリカ生活での慣れを感じます。これまでは、全て吸収しようと朝家を出てから夜遅くまで家に帰らず、とても活動的でしたが、最近では忙しさと慣れの中で新鮮さ、ここで暮らすトキメキも減り、ただ毎日を生きているだけになっているように思います。もちろんその分慣れないことや勇気の必要なことも減りましたが、限られた時間の中で日本にいた時と同じように日々を送るのは勿体無いと思います。すでにこの4ヶ月間で私が学んだことは数え切れません。ですが、自分がアメリカに来た目的を振り返ってモチベーション高く12月は過ごして行きたいです。

